

第39回中国語 訳文解答ファイル

問1.

*** 翻訳 START ***

【書類名】特許請求の範囲

【請求項1】

第1方向に延在する出力主軸と、

前記出力主軸に間隔をあけて順次設けられた第1遊星歯車列、第2遊星歯車列及び減速機構であって、前記第1遊星歯車列の遊星キャリア、前記第2遊星歯車列のリングギア及び前記減速機構の出力部がそれぞれ前記出力主軸に接続され、前記第1遊星歯車列のリングギアが前記第2遊星歯車列の遊星キャリアに接続されている、前記第1遊星歯車列、第2遊星歯車列及び減速機構と、

エンジン、第1モータ及び第2モータであって、前記エンジンの出力軸、前記第1モータのロータ及び前記第2モータのロータが前記出力主軸に沿って同軸上に配置され、前記第1モータのロータが前記第2遊星歯車列のサンギアに接続され、前記第2モータのロータが前記減速機構の入力部に接続されている、前記エンジン、前記第1モータ及び前記第2モータと、

前記エンジンと前記第1遊星歯車列のサンギアとの間の動力接続を制御する第1クラッチ構造と、

前記第2遊星歯車列の遊星キャリアを選択的にロックする第1制動構造と、

前記エンジン、前記第1モータ、前記第2モータ、前記第1クラッチ構造及び前記第1制動構造を電気的に接続する制御モジュールと、

を含むことを特徴とするハイブリッド動力システム。

【請求項2】

前記ハイブリッド動力システムが駆動状態にある場合、前記ハイブリッド動力システムは、少なくとも第1電動モード、第2電動モード、第1ギアモード及び第1ハイブリッド動力モードを備え、

前記第1電動モードにおいて、前記第1クラッチ構造及び前記第1制動構造の両方が切断され、前記エンジン及び前記第1モータの作動が停止され、前記第2モータが動力を出力し、

前記第2電動モードにおいて、前記第1クラッチ構造が切断され、前記第1制動構造がロックし、前記エンジンの作動が停止され、前記第1モータ及び前記第2モータの両方が動力を出力する、

ことを特徴とする請求項1に記載のハイブリッド動力システム。

*** 翻訳 END***

問2.

*** 翻訳 START ***

図2を参照し、第1ステップ（S2）において、切断されたIoTオブジェクト2とパケットデータネットワーク10との間の中継接続をサポート可能な、マルチRAT（radio access technology：無線アクセス技術）に対応したUE 16を探索する。例えば、切断されたIoTオブジェクト2と同じRATをサポートするUE 16を見つけることが可能であり、UE 16は、接続を確立できるよう、切断されたIoTオブジェクト2に物理的に十分に近接している。リレーUE 16が特定されると、切断されたIoTオブジェクト2との接続を確立可能になるよう、情報がリレーUE 16に送信される（S4）。この情報は、例えば、切断されたIoTオブジェクト2との接続に使用されるRATを識別する情報、及びRATに使用されるパラメータ、例えば、チャネル、モード、プロトコル、及び接続識別子（例えば、Wi-FiタイプのRAT用のサービスセット識別子（SSID：Service Set Identifier））を含む。追加情報には、リレーUE 16がIoTオブジェクト2からの接続要求を検証し受け入れるために必要な証明書、トークン、又は識別子が含まれてもよい。IoTオブジェクト2がリレーUE 16による中継を検証し受け入れるために、同様の追加情報を当該UE 16に送信してIoTオブジェクト2に再送信することも可能である。第3ステップ（S6）において、中継UE 16は、切断されたIoTオブジェクト2及びデータネットワーク10との接続を確立し、切断されたIoTオブジェクト2がデータネットワーク10と交信できるように、当該接続をブリッジしてデータネットワーク10への常時接続を提供する。必要に応じて、例えばIoTサービスプロバイダと合意され得るモバイルネットワークオペレータのポリシーに応じて、中継UE 16とデータネットワーク10との接続を構成することができる。これにより、モバイルネットワークオペレータは、例えば、課金やデータの他の特別な処理を容易にするために所定のネットワークスライス内で中継パケットをルーティングすることにより、所望の管理機能を実現することが可能になる。

*** 翻訳 END***

問3.

***** チェック START *****

これらの用途には、高強度で耐衝撃性のガラスが必要である。このような高い強度は通常、低温でのイオン交換プロセス、つまり化学焼き戻しとして知られるプロセスによって達成される。化学強化によりガラスが強化され、傷や衝撃に強く、爆発を防ぎます。化学強化は、ガラスの表面を置き換える機能を提供する。イオン交換プロセスの単純な原理は、350～490°Cの塩水溶液中、例えばNaNO₃、KNO₃、又はNaNO₃とKNO₃との混合物中でイオン交換を行い、ガラス表面層にある半径が比較的小さいイオンを、液体中にある半径が比較的大きいイオンと交換して、例えば、ガラスにおけるナトリウムイオンを溶液中のカリウムイオンと交換する。

特に、厚さが0.5～4mmのガラスに適している。化学強化ガラスの利点は、ガラスの反りを引き起こさないこと、表面の平坦度が元のガラスと同じであること、同時に、強度及び耐熱性がある程度向上すること、切断・せん断加工に適していることである。ガラスの強度は、CS（表面圧縮応力）及びDOL（表面応力層の深さ）によって測定される。実際のアプリケーションでは、高いCS及び高いDOLが求められる。DOL（表面応力層深さ）及びCS（表面圧縮応力）を合理的に制御することで、高強度のガラスを得ることができる。DOL（表面応力層の深さ）のサイズ、及びCS（表面圧縮応力）のサイズは、ガラスの組成、特にガラス中のアルカリ金属含有量に関連しており、強化時間・強化温度などの強化プロセスとも関連している。化学強化の過程で、ガラスの表面に圧縮応力層が形成される。

***** チェック END*****